

観峰書道

習字手本付録

Kampo School of
Calligraphy

発行日 2010年8月

発行者 原田由利

発行所 観峰文化センター

住所 〒606-8334

京都市左京区岡崎

南御所町 40-20

© 原田詳経 無断転載を禁ず

筆者

原田 観峰

1911~1995

・正しい文字美しい文字愛の習字の父
・正統書法を伝える書道教範の筆者
・美しい心と伝統の妙技伝承者

〔習字の第一歩〕

何事もその道を究めるには、それぞれの法に基づいて第一歩を始めなければなりません。書もまたその技法を学び体得して、幾歳月も錬磨を重ねてこそ、はじめて優れたものとなります。そのためには、常に正しい用具の使用法やその性能を研究し、文字を構成する基本の一点二画を練り上げるように努める心がけが大切です。

〔研墨法〕

研墨(墨すり)とは、心を浄め、心身を統一させ、静座運筆の呼吸をととのえることです。墨をするには、あまり力をいれてはいけません。硯の面で円を描くようにして繰り返しすります。知らず知らずにする力が偏つて、墨の底辺が斜めにならないように注意してすります。

〔習字法〕

- ① 見る (鑑賞する力を養う)
- ② 聞く (書法を学び、知識を深める)
- ③ 書く (技法を練る)

実技練習法

① 模写法

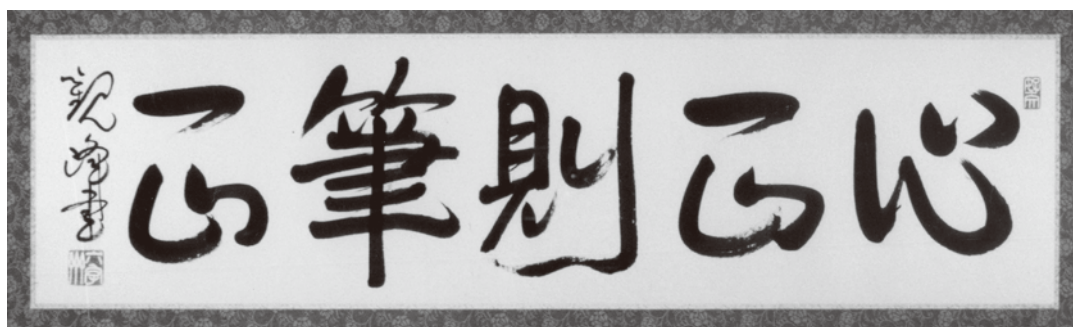
まだ癖のある字の場合、その感覚を直すために試みる方法で、習字手本または臨書手本を下に敷いて、その上に半紙をのせて敷き写す。

② 骨書法

手本文字の線の中心を線書きしたものに肉付けして書く。この骨書文字は指導者が書き与えるものを用いるのが一般的であるが、学習者が自分で鉛筆で書き、それをまた毛筆で肉付けして練習を行うのもよい。自らの手で骨書を行うとき、画の長短、方向、打込みやはねの方向などが理解できる長所があるので、一度は試みるとよい。

③ 籠書法

観峰書道赤手本の裏には骨法を掲示しているので、運筆・用筆・字形の要領を頭にいれて手本練習に取り組んでほしい。手本文字の輪郭を線でくまどりして、その中を毛筆で黒く染めていく。



〔心法〕

「心正則筆正」原田観峰書

習字の真義は単に文字を書くだけではなく、筆の錬磨を通して真の日本人を育てることだ。



KAMPO

書塾出版

www.kampo.co.jp